

効果が得られなかったのは、券契分明な荘園の存続は認め、国司に実施を任せていたためであった。
(-1)

誤字(-1)

西胡

延喜の荘園整理令は醍醐天皇の治世で出された。違法な荘園を停止させるなどして、従来の律令制に基づき土地所有を再建しようとしたが、この時期になると律令制はすでに崩壊しており、荘園整理令は効果を発揮しなかった。延久の荘園整理令は後三条天皇の治世で出された。公領を圧迫する荘園を取り締まるため、記録荘園券契所を設け、新しい荘園や書類不備の荘園を、摂関家の荘園でも例外なく停止したため、大きな効果をあげた。

延喜の荘園整理令との違いは述べられている。さらに延久の荘園整理令の効果として、皇室の權威が回復して、院や天皇家への荘園の寄進集中を招いたという具体的な内容を示そう。
(-2)

注意

「変遷について述べよ」とあるので、それぞれの出来事が起きた時期を明確に示すようにしよう。

14世紀末、通交とともに倭寇の禁圧を求めたことを述べよう。
(-1)

時系列に注意して論じよう。宗氏による貿易統制が確立するのは、応永の外寇以降のこと。

李成桂は朝鮮を建てると、日本に対して通交を求め、室町幕府がこれに応じることで、日朝貿易が始まった。貿易は三浦で行われ、三浦には倭館が置かれた。民間人も多く貿易に参加し、対馬の宗氏が貿易を管理・統制した。日本の主な輸出品は銅や硫黄、輸入品は木綿・大蔵経などであった。日朝貿易は応永の外寇により一時中断されたが、のちに再開された。しかし、朝鮮半島で三浦の乱が起こると、貿易は次第に衰退していった。

時期月を示そう。

・応永の外寇
=1419年
・三浦の乱
=1510年
(-1)

合格への一手

<(2)のポイント>

「室町時代の日朝貿易」という、中世外交史の重要テーマについて、日朝貿易の特徴などの知識は身につけていますが、「変遷について述べよ」という題意に沿った解答作成ができていないようです。

<要復習>

解答解説の年表や、教科書の記述を参考にして、日朝貿易の流れを整理し、自分の言葉で説明できるようにしましょう。